

日時：2021年10月31日（日）、14：00-15：30

オンライン(zoom)、無料

<https://us02web.zoom.us/j/87324673768?pwd=cnFnOG5wVXhYZlZ1Z2tpb2VDUT09>

パスコード：031744、ミーティングID：873 2467 3768

人間の開発と環境の変化によって、日々多くの生物が絶滅しています。生物は、お互い連鎖して生存していますので、たった一つの生物の減少によっても、回り回って多くの生物が影響を受けます。今回は、「生物多様性とは何か（岩波新書）」など生物と環境に関する多くの著述をされている共同通信社の井田徹治さんに講演をしていただきます。

「危機に立つ生物多様性」

講師：井田徹治さん（共同通信社編集委員兼論説委員、環境・開発・エネルギー問題担当）

井田徹治さんのプロフィール：1959年12月、東京生まれ。1983年、東京大学文学部社会学科卒、同年共同通信社に入社。つくば通信部などを経て1991年本社科学部記者。2001年から2004年まで、ワシントン支局特派員（科学担当）。2010年から現職。

環境と開発の問題を30年以上にわたって取材。アジア、アフリカ、中南米などでの環境破壊や貧困の現場、問題の解決に取り組む人々の姿などを報告してきた。気候変動枠組み条約締約国会議、ワシントン条約締約国会議、環境・開発サミットなど多くの国際会議もカバーしている。



著書：『大気からの警告—迫りくる温暖化の脅威』(創芸出版)、『データで検証!地球の資源ウソ・ホント—エネルギー、食糧から水資源まで(ブルーバックス)』、『サバがトロより高くなる日—危機に立つ世界の漁業資源』(講談社現代新書)、『カーボンリスク—CO2・地球温暖化で世界のビジネス・ルールが変わる』(北星堂、共著)、『ウナギ 地球環境を語る魚』(岩波新書)、『生物多様性とは何か』(同)、『地下水の科学』(講談社ブルーバックス、共著)、『データで検証 地球の資源』(講談社ブルーバックス)、『環境異変』(共同通信社、共編著)、『環境負債』(ちくまプリマー新書)、『グリーンエコノミー最前線』(岩波新書、共著)、『鳥学の100年』(平凡社)、『有害化学物質の話』(PHPサイエンス・ワールド新書)、『霊長類 消えゆく森の番人』(岩波新書)、『知っておきたい水問題』(共著、九州大学出版会)、『追いつめられる海』(岩波書店)、『次なるパンデミックを回避せよ』(岩波書店)、『Greening of Japanese Economy』(近刊、共著)

社会活動：中央環境審議会地球環境部会・総合政策部会臨時委員、学習院大学法学部非常勤講師、世界自然保護基金ジャパン理事、日本自然保護協会評議員／沿岸保全管理検討ワーキンググループ委員、藤原ナチュラルヒストリー財団評議員、損保ジャパン日本興亜環境財団評議員、山階芳麿賞選考委員、笹川平和財団海洋政策研究所・総合的海洋政策研究委員会／温暖化・海洋酸性化の研究と対策に関する調査研究委員会／公海ガバナンス研究会委員、一般財団法人リモート・センシング技術センター評議員 など